

<学習面>

○宿題がなくなり、出来る子と出来ない子の格差が激しいように思います。やらないのではなくて、やり方がわからない子もいると思うし、出来ない子は、わからないことを聞くことができないというより、何を聞くべきかもわかっていないと思います。

一人一人が自分に合った学習をすることはとても意義のあることです。教科によっては授業内で扱うワークやプリントを用意しています。全員一斉に取り組む部分もあれば、難易度別の問題を選択して進めている部分もあります。また、授業内で教師が生徒の様子を把握し声かけをする中で、その場で質問を受けたり、生徒どうして考えたりしている場もあります。今後も個に応じた支援(声かけや朱書きなど)、その子の困り感を教師間でも共有し、寄り添っていきます。

○単元テストは同じ日ですが時間はバラバラだと聞きました。公平性にかかわると思います。中間テストでなく単元テストにするメリットが知りたいです。

これまでの学校文化の中には、「課題があるから…、定期テストがあるから…、」などの理由で「学習をさせてきた」という側面もあります。それらはやらされる学習であり、自ら行う学習ではありません。本校では、「やらされる学習」から「自ら行う学習」にしていきたいと考えています。「自ら行う学習」ができる生徒は、中学卒業後も自らの学びを進めていくことができるようになるはずです。

単元テストのねらいは、定期テスト前だけ勉強をするのではなく、ふだんから計画的に学習を行えるようにすることです。単元という短い期間で確認テストを行うことで、「ふだんから計画的に学習を行う」→「単元テストで学習の成果を確認する」→「単元テスト後に振り返り(レビューシート)を行う」このような『学びのサイクル』をつくりたいと考えています。そして、その積み重ねが、結果として期末テストや実力テストの勉強になっていきます。過日の調査で、生徒からは、「単元テストは、範囲が狭いので学習がしやすい」「単元テストを復習することで、期末テストの勉強になる」などの意見も聞かれました。『学びのサイクル』を習慣化することが、「自ら行う学習」につながると考えています。

単元テストの実施時間が学級によって違うことで懸念されることは、「自習時間に差がでる」「問題内容が他学級に伝わってしまう可能性がある」ことなどが想像されます。自習時間に差がでることに関しては、出題範囲が事前に示されていることから大きな差になるとは考えていません。また、問題内容が他学級に伝わることにしても、テストをはじめに行った学級と、後に行った学級の結果に差が認められないため、問題内容が伝わっているとは考えにくい状況です。単元テストを実施するねらいとともに、問題を伝えることや聞くことは誰のメリットにもならないことを、引き続き生徒に伝えていきます。

○中間テストの代わりに単元テストがあることや期末テストの範囲が広い点や、期末と単元テストが重なるのは生徒達にとって負担が大きいと思います。

単元テストを実施する理由は、前述のとおりです。

期末テストの学習はテスト範囲の復習を一から行うわけではなく、今までに行ってきた単元テストの範囲を再度学び直すこととなります。また、学習内容の定着度合いを、単元テストと期末テストの2回確認することができ、テスト後には復習することもできるので、学力向上につながると考えています。

一方で、期末テスト週間に単元テストを実施することは、なるべく避けるようには配慮しています。しかしながら、単元が終わる時期によっては、期末テスト週間に行わざるを得ない場合もありますが、その単元テストの勉強がそのまま期末テストの学習につながりますので、ご理解いただきたいと思います。

<部活動>

○部活動の選択肢が狭く、子供達の自主的な活動の範囲が狭められていると思います。市内の他の中学では選択肢も多く、子供達の選択肢の幅に差があるのはおかしいと思います。子供達が、誰でも最低限何か一つのことに自信が持てるよう、さまざまな活動が学校生活の中でできるようになることを望みます。

既存の部活動は、教職員の人数、施設・設備等の条件に基づいて設置しています。学校部活動の意義としては、勝利至上主義に偏ることなく、生徒の自主的・自発的な活動を支える場として位置づけています。

本校では、現存する部活動の中で選択した活動及びその他の学校生活を通して、生徒一人一人が豊かな経験を積めるよう努めていきます。

<その他>

○宿題、テスト範囲や単元テスト、その他のお知らせをデンタツくんですべて知らせてくれるのは構わないが、生徒にもプリントで渡して欲しい。

本校では、情報のペーパーレス化を進めています。その理由は2つあります。1つはプリントによる情報量が多く、扱いに苦労されているというご意見を多数頂戴したこと、もう1つは、紙媒体の使用を最低限にとどめることで環境に配慮することです。

現在は、テスト範囲表(単元テスト以外)、保護者会の予定など、紙で配付しているものも一部あります。ご家庭では、今後も『デンタツくん』を有効活用していただき、学校のペーパーレス化にご協力いただきたいと思っています。

○年度初めの校長先生のお話をお聞きし、会社の新人研修に来たような感覚を覚えました。まだ心身の発達途上の中学生に求められることとして、まずは人間教育が一丁目一番地ではないでしょうか。

本校では、「生徒たちが自律人として社会の中でよりよく生きていく」を旨とし「自律と協調の精神を養い、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する」という教育目標を掲げています。学校説明会にて、「今、社会で求められる人間像」を挙げさせていただいているのは「社会に出たとき、必要とされる人間を育てていきたい」という強い思いからです。

生徒たちが、変化の激しい現代社会を生き抜いていくには、自分で考えること、多様性を受け止め他者と協力し合うこと、自分を客観視できることなど、まさに本校で大切にしている学びが必要だと考えています。大人への階段を上る成長過程の中学生に対して、私たち大人は「転ばぬ先の杖」を与え過ぎず、自ら動き出すことのできる力を育てていく必要があると考えています。今後も、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

○他県の体験牧場へ行った際、体験学習をしにきた中学生の書いた「乳搾りなどを通して命の大切さを学んだ」というような内容のものが、一人一人自分の言葉でしっかり書かれていて大変感動しました。豊城中の生徒達も、どんどん校外へ出かけて行き、様々な体験をさせてあげて欲しいです。

1年生は野外教育活動、2年生では職場体験活動、3年生では修学旅行など体験を伴った活動を各学年で行っています。また、本校はユネスコスクールに登録されています。そこで、文化継承や住みやすい街づくりの観点で三年間を通して「プロジェクト継」という活動を展開しています。「飽海人形浄瑠璃」「鬼祭」「祇園祭」など、市内でも有数な無形文化財に溢れている地の利を生かし、地域文化継承のため、人・もの・ことに触れ、実際に体験する学習やボランティア活動などを行っています。また、地域の方々と共に活動する「資源回収」や、校区の清掃活動をする「豊川クリーン活動」なども行っています。

以上のような体験を通して、他にない豊城中学校区の特徴を生かした学びができるように計画、実行しています。今後も、生徒たちの活動が、更に充実したものになるように工夫してまいります。